

キヤメル・ヤマモト 著『鷲の人、龍の人、桜の人 米中日のビジネス行動原理』

異文化との出会いがトキメキを

岸本周平



発売中
定価714円
集英社新書

この本の中で、アメリカ人は「基準^{スタンダード}」をつくる、中国人は「仲間^{チーム}」をつくる、日本人は「場」から発想する、という三つの行動原理が示されています。著者の経験からの具体的な例示をふんだんに使った説明は、分かりやすく、説得力があります。著者ほどの経験には及びませんが、アメリカの大学で教鞭をとり、中国の大学の客員教授をしている私から見ても、著者の指摘には、それぞれ思い当たる節があり、「なるほど、そうだなあ」と一気呵成に読了しました。

中国人も日本人も、子供の教育を重要視することでは共通しますが、著者はユダヤ人も同様であると指摘。私もアメリカ滞在中にできた友人の多くが、結果としてユダヤ人だったので、同感です。「ジュエイツ・マザー」と言えば、「やれ勉強しろ、やれたくさん食べろ」と過度に子供に干涉

する母親の典型ですが、日本人の母親とよく似ています。ただし、アメリカ人の家庭でも、ある一定の水準以上の所得があれば、どこも教育熱心です。逆に、貧乏でも教育熱心だった日本の家庭はその姿を変えつつあります。今では、親の所得や学歴と子供の教育への情熱は正比例になっています。ある意味、アメリカ化が進んでいます。日本が変わりつつあるとして、良い方向に変える努力が必要ではありません。

著者の意見は、まず日本人の良さであるチームワークを競争で磨けということです。できればチームに外国人を入れるとの指摘は大賛成。そして、外国人や日本人でも自分とは異質の人間を仲間にするのを勧めます。さらに、暗黙知の世界で伝承されてきた日本の良さを言葉で明確に「基準」化して、外国人に発信することが重要だとの結論です。「和風の場」を守るために、中

国式圈子とアメリカ式基準化を取り入れろ
と云うのです。

米中の大学で教え、国際金融の交渉してきた私の経験から、著者の言いはまさに「わが意を得たり」です。異文化と出会いと眠っていた遺伝子が目覚めるようなトキメキを感じます。しかし、国際化の進まない日本の官庁、なかでも文部科学省のお役人さんたちには理解してもらえないでしょう。内向き企業の「男性・大卒・正社員」も、さてどうでしょうか？ この本がベストセラーになるようなら、日本の未来は明るくなります。そうなるように強く願います。

キヤメル・ヤマモトさんと一献傾けながら、異文化との出会いによるトキメキのお話をしたいものです。

(きしもと・しゅうへい/中央大学客員教授)